



Cisco Unified IP Phone の設定

Cisco Unified IP Phone は、多くの機能を備えた電話機であり、IP ネットワークに直接接続できます。Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウを使用して、次の Cisco Unified IP Phone およびデバイスを設定することができます。

- SCCP および SIP の両方に対応する Cisco Unified IP Phone 7900 ファミリ
- Cisco IP Video Phone 7985
- Cisco Unified IP SIP Phone 3951
- Cisco IP Phone 30 VIP
- Cisco IP Phone 12 S
- Cisco IP Phone 12 SP
- Cisco IP Phone 12 SP+
- Cisco IP Phone 30 SP+
- H.323 クライアント
- Computer Telephony Integration (CTI) ポート
- Cisco IP Communicator
- Cisco Unified Personal Communicator
- Cisco ATA 186 アナログ電話アダプタ
- サードパーティ製 SIP デバイス (基本および拡張)
- IP-STE
- Cisco VG248 および VG224 ポート (アナログ電話機)



(注) 管理者は、Cisco VG248 および VG224 Analog Phone Gateway の設定を Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウから実行します。このウィンドウから、ゲートウェイ アナログ電話ポートを設定します (この設定では、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウが表示されます)。VG248 および VG224 ポートを更新する場合は、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウを使用します。次の手順は、この電話機タイプの更新または削除に適用されます。Cisco VG248 Analog Phone Gateway および VG224 Analog Phone Gateway の設定については、[P.81-1](#) の「[ゲートウェイの設定](#)」を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページに Cisco Unified IP Phone を追加すると、RIS Data Collector サービスからの情報が [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウに表示されます。デバイスの IP アドレス、およびデバイスが登録されている Cisco Unified Communications Manager の名前が利用可能であれば、表示されます。

次のトピックでは、Cisco Unified Communications Manager の管理ページにおける Cisco Unified IP Phone に関する作業と設定について説明しています。

- [Cisco Unified IP Phone の設定 \(P.82-3\)](#)
- [ゲートウェイの設定 \(P.81-1\)](#)
- [電話機の検索 \(P.82-40\)](#)
- [アクティブにログインしているデバイスの検索 \(P.82-42\)](#)
- [電話番号の設定の概要 \(P.57-1\)](#)
- [電話ボタンテンプレートの設定 \(P.89-1\)](#)
- [電話機の設定値 \(P.82-7\)](#)
- 『*Cisco Unified Communications Manager システム ガイド*』の「電話機設定チェックリスト」

追加情報

[P.82-43](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

Cisco Unified IP Phone の設定

Cisco Unified Communications Manager データベースに電話機を追加するには、自動登録を使用して自動的に行うか、または [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウを使用して手作業で行います。

自動登録を使用可能にすると、IP テレフォニー ネットワークに Cisco Unified IP Phone を接続するときに、その Cisco Unified IP Phone を Cisco Unified Communications Manager データベースに自動的に追加できます。自動登録時に、Cisco Unified Communications Manager は、次に使用可能な電話番号を順に電話機に割り当てます。しかし、自動登録を使用しない場合もあります。たとえば、特定の電話番号を電話機に割り当てる場合です。



(注)

自動登録は、小規模の設定や試験運用に限定して使用することをお勧めします。

クラスタ全体のセキュリティ モードを混合モードに設定すると、Cisco Unified Communications Manager が自動登録を使用不可にします。

自動登録を使用しない場合は、手作業で Cisco Unified Communications Manager データベースに電話機を追加する必要があります。

Cisco Unified IP Phone を Cisco Unified Communications Manager の管理ページに追加すると、RIS Data Collector サービスによって、デバイス名、登録状況、およびその電話機が登録された Cisco Unified Communications Manager の IP アドレスが [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウに表示されます。

Cisco Unified IP Phone を使用する前に、次の手順に従って、その電話機を Cisco Unified Communications Manager に追加する必要があります。また、この手順に従って、サードパーティ製 SIP 電話機、H.323 クライアント、CTI ポート、Cisco ATA 186 電話アダプタ、または Cisco IP Communicator を設定することもできます。H.323 クライアントの代わりに、Microsoft NetMeeting クライアントも使用できます。CTI ポートは、Cisco Unified Communications Manager アプリケーション、たとえば、Cisco SoftPhone や Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant が使用する仮想デバイスを示します。



(注)

Cisco VG248 および VG224 電話ポートは、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウから追加します。設定については、[P.81-1](#) の「ゲートウェイの設定」を参照してください。



ワンポイント・アドバイス

電話ボタンおよびソフトキーの非標準テンプレートを使用する場合は、そのテンプレートを設定した後に電話機を追加する必要があります。設定については、[P.89-3](#) の「電話ボタンテンプレートの設定」および [P.90-3](#) の「非標準ソフトキーテンプレートの作成」を参照してください。

手順

ステップ 1 [デバイス] > [電話] の順に選択します。

[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかの作業を行います。



(注) MAC アドレスの入手については、[P.82-5](#) の「[電話機の MAC アドレスの表示](#)」を参照してください。

- 既存の電話機をコピーするには、該当する電話機を見つけます ([P.82-40](#) の「[電話機の検索](#)」を参照)。次に、コピーする電話機の横にある [**コピー (Copy)**] ボタンをクリックし、[ステップ 5](#) に進みます。
- 既存の電話機をコピーし、電話機に関連付けられた電話番号、短縮ダイヤル、ビジー ランプ フィールド / 短縮ダイヤル、およびサービス URL をコピーするには、該当する電話機を見つけます ([P.82-40](#) の「[電話機の検索](#)」を参照)。次に、コピーする電話機の横にある [**スーパーコピー (Super Copy)**] ボタンをクリックし、[ステップ 5](#) に進みます。



(注) コピーされた回線は、元の電話機と新しい電話機との共有回線になります。

- 新しい電話機を追加するには、[\[新規追加\]](#) ボタンをクリックし、[ステップ 3](#) に進みます。
- 既存の電話機を更新するには、該当する電話機を見つけます ([P.82-40](#) の「[電話機の検索](#)」を参照)。次に、[ステップ 5](#) に進みます。

ステップ 3 [電話のタイプ (Phone Type)] ドロップダウン リスト ボックスから、適切な電話機タイプまたはデバイスを選択し、[\[次へ\]](#) をクリックします。電話機タイプの選択後にそのタイプを変更することはできません。

ステップ 4 [デバイスプロトコルの選択 (Select the device protocol)] ドロップダウン リスト ボックスが表示された場合は、デバイスの適切なプロトコルを選択し、[\[次へ\]](#) をクリックします。表示されない場合は、[ステップ 5](#) に進んでください。

[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 5 適切な設定値を入力します ([表 82-1](#) を参照)。

選択された電話機タイプに該当する設定値だけが、ウィンドウに表示されます。

ステップ 6 [\[保存\]](#) をクリックします。

電話機を追加する場合は、電話機がデータベースに追加されたことを知らせるメッセージが表示されます。この電話機に電話番号を追加するには、ウィンドウの左側に表示される [\[割り当て情報 \(Association Information\)\]](#) ペインで、[\[回線 \[1\] - 新規 DN を追加\]](#) など、回線リンクのいずれかをクリックします。[P.57-8](#) の「[電話番号の設定値](#)」に進みます。

電話機を更新する場合は、変更内容を有効にするには [\[リセット\]](#) ボタンをクリックする必要がありますことを示すメッセージが表示されます。[\[リセット\]](#) ボタンの詳細については、[P.82-5](#) の「[電話機のリセット](#)」を参照してください。

次の手順

この電話機に短縮ダイヤル ボタンを設定するには、P.82-31 の「短縮ダイヤル ボタンの設定」を参照してください。この電話機にサービスを設定するには、P.82-34 の「IP Phone サービスの設定」を参照してください。この電話機にサービス URL ボタンを設定するには、P.91-10 の「IP Phone サービスの電話ボタンへの追加」を参照してください。この電話機のビジー ランプ フィールド / 短縮ダイヤルの設定値を設定するには、P.82-33 の「BLF/ 短縮ダイヤルの設定値」を参照してください。

追加情報

H.323 クライアント、CTI ポート、および他のデバイスと共に、電話機を Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定する方法については、P.82-43 の「関連項目」を参照してください。

電話機の MAC アドレスの表示

Media Access Control (MAC; メディア アクセス制御) アドレスは、Cisco Unified IP Phone またはその他のハードウェア デバイスを識別する固有の 12 桁の 16 進数から構成されています。電話機の底に貼ってあるラベルに、この番号が記載されています (たとえば、Cisco Unified IP Phone 7900 ファミリ モデルの場合は 000B6A409C405、Cisco IP Phone SP 12+ および 30 VIP の場合は SS-00-0B-64-09-C4-05)。Cisco Unified Communications Manager では、MAC アドレスは Cisco Unified IP Phone デバイス設定の必須フィールドです。Cisco Unified Communications Manager フィールドに MAC アドレスを入力するときは、スペースとダッシュを使用しないでください。また、ラベル上の MAC アドレスの前にある「SS」は入力しないでください。

Cisco Unified IP Phone の MAC アドレスやその他の設定値を表示する方法の詳細については、該当の電話機モデルの『Cisco Unified IP Phone アドミニストレーション ガイド for Cisco Unified Communications Manager』を参照してください。Cisco IP Phone 12 シリーズ、および Cisco IP Phone 30 シリーズまたは Cisco VG248 Gateway の MAC アドレスを表示するには、次の作業を実行します。

- Cisco IP Phone 12 SP+ および 30 VIP : ** を押して、LCD ディスプレイの 2 行目に MAC アドレスを表示する。
- Cisco VG248 電話ポート : MAC アドレスは、Cisco Unified Communications Manager の管理 ページの [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウからエンドポイントを指定する。設定については、P.81-1 の「ゲートウェイの設定」を参照してください。
- Cisco VG224 電話ポート : Cisco VG224 ゲートウェイは、MGCP ゲートウェイまたは SCCP ゲートウェイとして設定できる。SCCP ゲートウェイとして設定した場合は、24 のアナログ電話 エンドポイントを割り当てることができます。このように設定した場合、このゲートウェイは IOS SCCP ゲートウェイと同様に動作します。個々の電話機の MAC アドレスは、スロット位置、サブユニット、ポート、および元の MAC アドレスの最後の 10 文字を考慮した式を使用して計算されます。設定については、P.81-1 の「ゲートウェイの設定」を参照してください。
- Cisco IP Communicator : Cisco IP Communicator アプリケーションをインストールするクライアント PC のネットワーク インターフェイスから MAC アドレスを取得する。

追加情報

P.82-43 の「関連項目」を参照してください。

電話機のリセット

電話番号の追加、または設定値の更新を行った後、変更内容を有効にするために、Cisco Unified IP Phone をリセットする必要はありません。Cisco Unified Communications Manager が自動的にリセットを実行します。ただし、次の手順に従えば、いつでも Cisco Unified IP Phone をリセットできます。



(注) コールが進行中の場合は、そのコールが終了した後に電話機がリセットされます。

手順

ステップ 1 [デバイス] > [電話] の順に選択します。

[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 特定の電話機を見つけるには、検索条件を入力し、[検索] をクリックします。

検索条件と一致する電話機のリストが表示されます。

ステップ 3 リセットする電話機の横にあるチェックボックスをオンにします。ウィンドウ内の電話機をすべて選択するには、[すべてを選択] をクリックします。

ステップ 4 [選択項目のリセット] をクリックします。

[デバイスリセット (Device Reset)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 5 次のいずれかのボタンをクリックします。

- [リスタート]: 選択されたデバイスをシャットダウンせずに、再起動する (Cisco Unified Communications Manager に電話機を再登録する)。
- [リセット]: 選択されたデバイスをシャットダウンした後、再度立ち上げる (電話機の完全なシャットダウンと再初期化を実行する)。
- [閉じる]: 選択されたデバイスの再起動やリセットを実行せずに、前のウィンドウに戻る。

追加情報

P.82-43 の「関連項目」を参照してください。

電話機の削除

Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用して Cisco Unified IP Phone を削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

電話機を削除する前に、その電話機に関連付けられた電話番号を削除する必要があるかどうかを決定します。電話機を削除する前に電話番号を削除するには、P.57-5 の「電話機からの電話番号の削除」を参照してください。電話機を削除する前に電話番号を削除しない場合は、電話機が削除された後も、電話番号は Cisco Unified Communications Manager データベースに保持されます。データベースから電話番号を削除するには、P.60-3 の「割り当てられていない電話番号の削除」を参照してください。

電話機に割り当てられている電話番号は、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの [割り当て情報 (Association Information)] 領域で確認できます。または、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの [関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスから [依存関係レコード] を選択し

て確認することもできます。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、P.A-4 の「[依存関係レコードへのアクセス](#)」を参照してください。

手順

ステップ 1 [デバイス] > [電話] の順に選択します。

[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 特定の電話機を見つけるには、検索条件を入力し、[検索] をクリックします。

検索条件と一致する電話機のリストが表示されます。

ステップ 3 次のアクションのいずれかを実行します。

- 削除する電話機の横にあるチェックボックスをオンにし、[選択項目の削除] をクリックする。
- ウィンドウ内の電話機をすべて削除するには、[すべてを選択] をクリックし、[選択項目の削除] をクリックする。
- 削除する電話機の名前をリストから選択して、現在の設定値を表示し、[削除] をクリックする。

確認ダイアログが表示されます。

ステップ 4 [OK] をクリックします。

追加情報

P.82-43 の「[関連項目](#)」を参照してください。

電話機の設定値

表 82-1 では、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウ内で使用可能な設定値について説明します。関連する手順については、P.82-43 の「[関連項目](#)」を参照してください。



(注)

[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] セクションには、電話機のメーカーによって指定されたモデル固有のフィールドが含まれています。Cisco Unified Communications Manager は、これらのフィールドにデフォルト値を動的に取り込みます。

フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] 領域にある「？」疑問符アイコンをクリックします。ポップアップ ウィンドウにヘルプが表示されます。

詳細な情報が必要な場合は、設定する個々の電話機の資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。

表 82-1 電話機の設定値

フィールド	説明
[デバイス情報 (Device Information)]	
[MAC アドレス (MAC Address)]	<p>Cisco Unified IP Phone (ハードウェア電話機のみ) を識別するメディア アクセス制御 (MAC) アドレスを入力します。この値が 12 桁の 16 進文字から構成されていることを確認してください。</p> <p>ご使用の電話機の MAC アドレスにアクセスする方法については、該当の電話機モデルの『Cisco Unified IP Phone アドミニストレーションガイド for Cisco Unified Communications Manager』を参照してください。</p> <p>Cisco VG248 Analog Phone Gateway</p> <p>Cisco VG248 ゲートウェイの MAC アドレスは、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウからエンドポイントを指定します。設定については、P.81-1 の「ゲートウェイの設定」を参照してください。</p> <p>Cisco VG248 Analog Phone Gateway には、MAC アドレスが 1 つしかありません。48 個のすべてのポートが、同じ MAC アドレスを共有します。Cisco Unified Communications Manager には、すべてのデバイスに固有の MAC アドレスが必要です。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、各デバイスの MAC アドレスを次のように変換します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • MAC アドレスの先頭 2 桁を除去します。 • MAC アドレスを左に 2 桁シフトします。 • MAC アドレスの末尾 (番号の右側) に 2 桁のポート番号を追加します。 <p>EXAMPLE MAC Address for the Cisco VG248 is 000039A44218 the MAC address for registered port 12 in the Cisco Unified Communications Manager is 0039A4421812</p> <p>Cisco VG224 Analog Phone Gateway</p> <p>Cisco VG224 ゲートウェイは、MGCP ゲートウェイまたは SCCP ゲートウェイとして設定できます。SCCP ゲートウェイとして設定した場合は、24 のアナログ電話エンドポイントを割り当てることができます。このように設定した場合、このゲートウェイは IOS SCCP ゲートウェイと同様に動作します。個々の電話機の MAC アドレスは、スロット位置、サブユニット、ポート、および元の MAC アドレスの最後の 10 文字を考慮した式を使用して計算されます。</p>
[デバイス名 (Device Name)]	ソフトウェア ベースの電話機、H.323 クライアント、および CTI ポートを識別する名前を入力します。この値には、1 ~ 15 文字 (英数字、ドット、ダッシュ、または下線を含む) を指定できます。

表 82-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[説明 (Description)]	<p>デバイスの目的を指定します。このフィールドには、ユーザ名 (たとえば「John Smith」) または電話機のロケーション (たとえば「Lobby」) を入力できます。</p> <p>Cisco VG248 ゲートウェイでは、VGC<mac address> でこの記述が開始されます。</p>
[デバイスプール (Device Pool)]	この電話機を割り当てるデバイス プールを選択します。デバイス プールでは、地域、日付 / 時間グループ、ソフトキー テンプレート、Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) 情報など、デバイスに共通する一連の特性を定義します。
[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)]	<p>この電話機を割り当てる共通デバイス設定を選択します。共通デバイス設定には、特定のユーザに関連付けられた属性 (サービスまたは機能) が含まれています。共通デバイス設定は、[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] ウィンドウで設定します。詳細については、P.93-1 の「共通デバイス設定」を参照してください。</p> <p>共通デバイス設定を表示するには、[詳細の表示] リンクをクリックします。</p>
[電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)]	<p>適切な電話ボタン テンプレートを選択します。電話ボタン テンプレートは、電話機上のボタンの設定を決定し、各ボタンに使用される機能 (回線、短縮ダイヤルなど) を指定します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、H.323 クライアントと CTI ポートに対しては、このフィールドを使用不可にします。</p>
[ソフトキーテンプレート (Softkey Template)]	適切なソフトキー テンプレートを選択します。ソフトキー テンプレートは、Cisco Unified IP Phone におけるソフトキーの設定を決定します。割り当て済みのソフトキー テンプレートが共通デバイス設定に含まれている場合、このフィールドはブランクのままにします。
[共通の電話プロフィール (Common Phone Profile)]	ドロップダウン リスト ボックスで、使用可能な共通の電話機プロフィールのリストから、共通の電話機プロフィールを選択します。
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリングサーチスペースを選択します。コーリングサーチスペースは、ダイヤルされた番号のルート指定方法を決定するために検索されるパーティションの集合から構成されます。デバイスのコーリングサーチスペースと電話番号のコーリングサーチスペースは併用されず、電話番号の CSS はデバイスの CSS に優先します。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「パーティションおよびコーリングサーチスペース」を参照してください。</p> <p>電話機のコーリングサーチスペースの設定情報については、P.57-30 の「[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]」を参照してください。</p>

表 82-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)]	<p>Automated Alternate Routing (AAR; 自動代替ルーティング) の実行時にデバイスが使用するコーリングサーチスペースを選択します。AAR コーリングサーチスペースは、帯域幅不足によってコールがブロックされないように、収集された (発信) 番号のルーティング方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。</p> <p>電話機のコーリングサーチスペースの設定情報については、P.57-30 の「[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]」を参照してください。</p>
[メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)]	<p>適切なメディアリソースグループリストを選択します。メディアリソースグループリストは、優先順位順に並べられたメディアリソースグループから構成されます。アプリケーションは、メディアリソースグループリストで定義された優先順位に従って、使用可能なメディアリソースの中から、必要なメディアリソース、たとえば、保留音サーバを選択します。</p> <p>[<なし>] を選択すると、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスプールに定義されているメディアリソースグループリストを使用します。</p> <p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「メディアリソースの管理」を参照してください。</p>
[ユーザ保留 MOH 音源 (User Hold MOH Audio Source)]	<p>ユーザが保留操作を開始するときに再生されるオーディオソースを指定するには、ドロップダウン矢印をクリックし、表示されるリストからオーディオソースを選択します。</p> <p>オーディオソースを選択しない場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスプールに定義されているオーディオソースを使用します。または、デバイスプールがオーディオソース ID を指定していない場合は、システムデフォルトを使用します。</p> <p> (注) オーディオソースの定義は、[保留音オーディオソースの設定 (Music On Hold Audio Source Configuration)] ウィンドウで行います。アクセスするには、[メディアリソース] > [保留音オーディオソース] の順に選択します。</p>
[ネットワーク保留 MOH 音源 (Network Hold MOH Audio Source)]	<p>ネットワークが保留動作を開始するときに再生されるオーディオソースを指定するには、ドロップダウン矢印をクリックし、表示されるリストからオーディオソースを選択します。</p> <p>オーディオソースを選択しない場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスプールに定義されているオーディオソースを使用します。または、デバイスプールがオーディオソース ID を指定していない場合は、システムデフォルトを使用します。</p> <p> (注) オーディオソースの定義は、[保留音オーディオソースの設定 (Music On Hold Audio Source Configuration)] ウィンドウで行います。アクセスするには、[メディアリソース] > [保留音オーディオソース] の順に選択します。</p>

表 82-1 電話機の設定値（続き）

フィールド	説明
[ロケーション (Location)]	この Cisco Unified IP Phone に適切なロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。ロケーションに [Hub_None] を設定すると、そのロケーションの機能では、この Cisco Unified IP Phone が消費する帯域幅を把握しません。
[AAR グループ (AAR Group)]	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループが指定されない場合、Cisco Unified Communications Manager はデバイス プールまたは回線に関連付けられている AAR グループを使用します。
[ユーザロケール (User Locale)]	ド롭ダウン リスト ボックスから、その電話機ユーザ インターフェイスに関連したロケールを選択します。そのユーザ ロケールは、言語とフォントを含んだ、ユーザをサポートする一連の詳細情報を識別します。 Cisco Unified Communications Manager は、ローカリゼーションをサポートする電話機モデルに対してのみ、このフィールドを使用可能にします。  (注) ユーザ ロケールが指定されない場合、Cisco Unified Communications Manager はデバイス プールに関連付けられているユーザ ロケールを使用します。  (注) 英語以外の言語で情報を（電話機に）表示することをユーザが要求している場合は、ユーザ ロケールを設定する前に、ロケール インストーラがインストールされていることを確認します。Cisco Unified Communications Manager Locale Installer のマニュアルを参照してください。
[ネットワークロケール (Network Locale)]	ド롭ダウン リスト ボックスから、その電話に関連したロケールを選択します。ネットワーク ロケールには、特定の地域で電話機が使用するトーンおよび断続周期の定義が含まれています。 Cisco Unified Communications Manager は、ローカリゼーションをサポートする電話機モデルに対してのみ、このフィールドを使用可能にします。  (注) ネットワーク ロケールが指定されない場合、Cisco Unified Communications Manager はデバイス プールに関連付けられているネットワーク ロケールを使用します。  (注) ユーザが国別のトーンを（電話機で）再生する必要がある場合は、ネットワーク ロケールを設定する前に、ロケールがインストールされていることを確認します。Cisco Unified Communications Manager Locale Installer のマニュアルを参照してください。

表 82-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[ビルトインブリッジ (Built In Bridge)]	<p>[ビルトインブリッジ (Built In Bridge)] ドロップダウン リスト ボックスを使用することにより、割り込み機能の組み込み会議ブリッジを使用可能または使用不可にします ([オン]、[オフ]、または [デフォルト]) を選択する。</p> <p> (注) Cisco Unified IP Phone 7940 および 7960 では、2 つのメディア ストリーム暗号化または SRTP ストリームを同時にサポートすることはできません。この条件によって動作が不安定にならないよう、システムでは、デバイス セキュリティ モードが [暗号化] に設定されたときは、7940 および 7960 電話機の組み込みブリッジを自動的に使用不可にします。</p> <p>設定の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「割り込みとプライバシー」を参照してください。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』も参照してください。</p>
[プライバシー (Privacy)]	<p>プライバシーを必要とする各電話機について、[プライバシー (Privacy)] ドロップダウン リスト ボックスで [オン] を選択します。設定の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「割り込みとプライバシー」を参照してください。</p>
[デバイスモビリティモード (Device Mobility Mode)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、このデバイスに対してデバイス モビリティ機能のオン/オフを切り替えるか、デフォルトのデバイス モビリティモードを使用します。</p> <p>[現在のデバイスモビリティ設定の表示] をクリックすると、次のデバイス モビリティ パラメータの現在の値が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unified Communications Manager グループ • [ローミング用デバイスプール (Roaming Device Pool)] • [ロケーション (Location)] • [リージョン (Region)] • [ネットワークロケール (Network Locale)] • [AAR グループ (AAR Group)] • [AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)] • [デバイスコーリングサーチスペース (Device Calling Search Space)] • [メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)] • [SRST] <p>設定の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「Cisco Unified Communications Manager デバイス モビリティ」を参照してください。</p>

表 82-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[シグナリングポート (Signaling Port)]	このフィールドは H.323 デバイスのみに適用されます。このデバイスが使用する H.225 シグナリング ポートの値を指定します。 デフォルト値は 1720 です。有効値の範囲は 1 ~ 65535 です。
[Video Capabilities Enabled/disabled]	ビデオ機能のオンとオフを切り替えます。
[オーナーのユーザ ID (Owner User ID)]	ドロップダウン リスト ボックスから、割り当てられている電話機のユーザのユーザ ID を選択します。ユーザ ID は、このデバイスから発信されるすべてのコールの Call Detail Record (CDR; 呼詳細レコード) に記録されます。  (注) エクステンション モビリティを使用する場合、このフィールドは設定しないでください。エクステンション モビリティは、デバイス オーナーをサポートしません。
[モビリティユーザ ID (Mobility User ID)] (デュアル モードの電話機のみ)	ドロップダウン リスト ボックスから、このデュアル モード電話機が割り当てられているユーザのユーザ ID を選択します。  (注) モビリティ ユーザ ID の設定は、デュアル モード電話機のモバイル コネクトとモバイル ボイス アクセスで使用されます。  (注) オーナーのユーザ ID とモバイル ユーザ ID は異なることがあります。
[電話機のパーソナライゼーション (Phone Personalization)]	ドロップダウン リスト ボックスを使用して、このデバイスの Cisco Unified Phone Application Suite 機能を有効または無効にします。[デフォルト] を選択すると、共通電話プロフィールで設定された電話機の個別設定が使用されます。 <ul style="list-style-type: none"> • [無効] : Cisco Unified Phone Application Suite 機能はどれもアクティブになりません。 • [有効] : この設定は、個別に設定された背景イメージファイル (電話機の画面に使用)、一時的な表示に使用するプレビュー イメージファイル、および個別に設定されたトーン ファイル (デフォルトの呼び出し音を個別に設定可能) を許可します。 • [デフォルト] : 共通電話プロフィールの電話機の個別設定を使用します。
[プライマリ Phone (Primary Phone)]	(IP Communicator または CUPC などの) アプリケーションに関連付ける物理的な電話機を選択します。プライマリ Phone を選択した場合、アプリケーションが使用するデバイス ライセンス ユニットの少なくなり、(プライマリ Phone に対する) 「付加」ライセンスとみなされます。『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「ライセンシング」を参照してください。

表 82-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[ファーエンド H.245 ターミナル機能セットを待機 (Wait for Far End H.245 Terminal Capability Set)]	<p>このフィールドは H.323 デバイスのみに適用されます。</p> <p>このチェックボックスでは、Cisco Unified Communications Manager がファーエンド H.245 ターミナル機能セットを受信した後に、その H.245 ターミナル機能セットを送信するように指定します。このチェックボックスはデフォルトでオンになっています。Cisco Unified Communications Manager が機能交換を実行するように指定するには、このチェックボックスをオフにします。</p>
[電話ロード名 (Phone Load Name)]	<p>Cisco Unified IP Phone のカスタム ソフトウェアを入力します。</p> <p>このフィールドに入力される値は、現在のモデルのデフォルト値を上書きします。詳細については、P.85-1 の「デバイス デフォルトの設定」を参照してください。</p> <p>Cisco Unified IP Phone ソフトウェアおよび設定の詳細については、該当の電話機モデルの『<i>Cisco Unified IP Phone アドミニストレーションガイド for Cisco Unified Communications Manager 6.0</i>』を参照してください。</p>
[ビデオコールを音声として再試行 (Retry Video Call as Audio)]	<p>このチェックボックスは、コールを受信するビデオ エンドポイントのみに適用されます。この電話機が、ビデオとして接続しないコールを受信すると、そのコールはオーディオ コールとして接続しようとしています。</p> <p>このチェックボックスはデフォルトでオンになっています。このデバイスは、ビデオ コールをコール制御に送信して再ルーティングする直前に、オーディオ コールとして (ビデオ コールとして接続できない場合) そのビデオ コールをリトライします。</p> <p>このチェックボックスをオフにすると、ビデオとして接続に失敗したビデオ コールは、オーディオ コールとしての確立を試行しません。この場合、コールはコール制御に失敗し、コール制御は Automatic Alternate Routing (AAR) およびルート/ハントリスト経由でコールをルーティングします。</p>
[プレゼンテーションインジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators、内線コールのみ)]	<p>コールごとにコール表示制限を設定するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにすると、Cisco Unified Communications Manager は内部コールが受信するすべての表示制限を無視します。</p> <p>この設定は、トランスレーション パターンレベルで発信側の回線 ID 表示と接続側の回線 ID 表示の設定を組み合わせで使用してください。同時に、これらの設定値では、コール表示制限を設定して、各コールに対して発信側の回線または接続側の回線の表示情報を選択的に表示、またはブロックできます。</p> <p>発信側の回線 ID 表示と接続側の回線 ID 表示のパラメータの詳細については、P.53-5 の「トランスレーション パターンの設定値」の表 53-1 を参照してください。</p> <p>コール表示制限の詳細については、『<i>Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド</i>』の「Call Display Restrictions 機能」の章を参照してください。</p>

表 82-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[CTI からデバイスを制御可能 (Allow Control of Device from CTI)]	<p>CTI からこのデバイスを制御および監視できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>関連付けられた電話番号が共有回線を指定している場合、関連付けられたデバイスの少なくとも 1 つが、CTI でサポートされるデバイス タイプおよびプロトコルの組み合わせを指定しているときは、チェックボックスがオンにする必要があります。</p>
[ハントグループにログイン (Logged Into Hunt Group)]	<p>このチェックボックスは、デフォルトですべての電話機に対してオンになり、電話機が現在ハント リスト (グループ) にログインしていることを示します。電話機がハント リストに追加されたときに、管理者はこのチェックボックスをオン (オフ) にすることにより、ユーザをログインまたはログアウトさせることができます。</p> <p>ユーザは電話機のソフトキーを使用して、その電話機をハント リストにログインさせ、またはハント リストからログアウトさせます。</p>
[リモートデバイス (Remote Device)]	<p>リモート サイトへの SCCP パイプで接続時間が遅延している場合は、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの [リモートデバイス (Remote Device)] チェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにすると、登録時に電話デバイスにバッファを割り当て、電話機に SCCP メッセージを組み込むことを Cisco Unified Communications Manager に指示できます。</p> <p> ヒント この機能はリソースを消費するため、SCCP 電話機にシグナリングの遅延が生じている場合にのみこのチェックボックスをオンにしてください。このオプションは、ほとんどのユーザには必要ありません。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、ステーション バッファがいっぱいになったとき、メディア関連メッセージの受信直後、または Bundle Outbound SCCP Messages Timer が時間切れになったときに、組み込まれたメッセージを送信します。</p> <p>Bundle Outbound SCCP Messages Timer に対してデフォルト設定 (100 ミリ秒) 以外の設定を指定するには、Cisco CallManager サービスの [サービスパラメータ設定 (Service Parameters Configuration)] ウィンドウで新しい値を設定します。100 ミリ秒が推奨設定ですが、15 ~ 500 ミリ秒を入力することができます。</p> <p> (注) Cisco Unified Communications Manager Business Edition システムでは、クラスタワイドサービス パラメータがシステム内の単一のサーバに適用されます。</p> <p>このオプションを使用するには、電話機が SCCP バージョン 9 をサポートしている必要があります。Cisco Unified IP Phone 7935/7936 は、SCCP メッセージ最適化をサポートしていません。この機能では、更新後に電話機のリセットが必要です。</p>

表 82-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[プロトコル固有情報 (Protocol Specific Information)]	
[パケットキャプチャモード (Packet Capture Mode)]	<p>暗号化のトラブルシューティング専用の設定。パケット キャプチャリングは、高い CPU 使用率およびコール処理中断の原因となります。ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [なし] : このオプション (デフォルト設定) は、パケット キャプチャリングが行われなことを示します。パケット キャプチャリングが完了したら、この値に設定してください。 [バッチ処理モード] : Cisco Unified Communications Manager が復号化または非暗号化されたメッセージをファイルに書き込み、システムが各ファイルを暗号化します。システムは毎日、新しい暗号鍵を持つ新しいファイルを作成します。Cisco Unified Communications Manager は、ファイルを 7 日間保存し、また安全な場所でファイルを暗号化する鍵も保存します。Cisco Unified Communications Manager はファイルを PktCap 仮想ディレクトリに保存します。単一のファイルには、タイム スタンプ、送信元 IP アドレス、送信元 IP ポート、宛先 IP アドレス、パケット プロトコル、メッセージ長、およびメッセージが含まれます。TAC デバッグ ツールは、HTTPS、管理者のユーザ名とパスワード、および指定日を使用して、キャプチャされたパケットを含む単一の暗号化されたファイルを要求します。さらに鍵情報も要求し、暗号化されたファイルを復号化します。 <p>パケットのキャプチャの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager トラブルシューティングガイド』を参照してください。</p>
[パケットキャプチャ時間 (Packet Capture Duration)]	<p>暗号化のトラブルシューティング専用の設定。パケット キャプチャリングは、高い CPU 使用率およびコール処理中断の原因となります。</p> <p>このフィールドには、パケット キャプチャリングの 1 つのセッションに割り当てる最大分数を指定します。デフォルト設定は 0 です。ただし、0 ~ 300 分の範囲で指定できます。</p> <p>パケット キャプチャリングを開始するには、このフィールドに 0 以外の値を入力します。パケット キャプチャリングの完了後、0 が表示されます。</p> <p>パケットのキャプチャの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager トラブルシューティングガイド』を参照してください。</p>
[SRTP を許可]	<p>このチェックボックスの説明に従い、このフラグをオンにする場合は、ネットワークに IPSec を設定して、エンドツーエンドのセキュリティを確保する必要があります。この設定を行わないと、鍵やその他の情報が暴露されます。</p> <p>SRTP 暗号化の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティガイド』を参照してください。</p>

表 82-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[プレゼンスグループ (Presence Group)]	<p>このフィールドには、プレゼンス機能を設定します。</p> <p>ドロップダウンリストボックスから、エンドユーザ用のプレゼンスグループを選択します。選択されたグループでは、この電話番号を監視できるデバイス、エンドユーザ、およびアプリケーションユーザが指定されます。</p> <p>[プレゼンスグループ (Presence Group)] のデフォルト値は、インストール時に設定された [Standard Presence group] です。Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定されたプレゼンスグループもドロップダウンリストボックスに表示されます。</p> <p>プレゼンス認可は、プレゼンスグループと連携して、グループ間のプレゼンス要求を許可またはブロックします。グループ間の権限の設定、およびプレゼンスをエクステンションモビリティと連携させる方法については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービスガイド』の「プレゼンス」の章を参照してください。</p>
[デバイスセキュリティプロファイル (Device Security Profile)]	<p>デバイスに適用するセキュリティプロファイルを選択します。</p> <p>セキュリティプロファイルは、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定したすべての電話機に適用する必要があります。Cisco Unified Communications Manager をインストールすると、あらかじめ定義されたノンセキュアなセキュリティプロファイルのセットが自動登録用に提供されます。電話機のセキュリティ機能を使用可能にするには、デバイスタイプとプロトコルに対応した新しいセキュリティプロファイルを設定して電話機に適用する必要があります。電話機がセキュリティをサポートしていない場合は、ノンセキュアプロファイルを選択します。</p> <p>プロファイルに含まれている設定値を確認するには、[システム] > [セキュリティプロファイル] > [電話セキュリティプロファイル] の順に選択します。</p> <p> (注) プロファイルに含まれている CAPF 設定値は、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウに表示される [CAPF 情報 (Certification Authority Proxy Function (CAPF) Information)] 設定値に関連しています。製造元でインストールされる証明書 (MIC) またはローカルで有効な証明書 (LSC) が関与する証明書操作の CAPF 設定値を設定する必要があります。[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで更新した CAPF 設定値がセキュリティプロファイルの CAPF 設定値に与える影響の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティガイド』を参照してください。</p>

表 82-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[SIP ダイアルルール (SIP Dial Rules)]	<p>必要に応じて、適切な SIP ダイアル規則を選択します。SIP ダイアル規則により、Cisco Unified IP Phone 7905、7912、7940、および 7960 ではローカルのダイアルプランを使用できます。そのため、ユーザは、コール処理の前にキーを押す必要も、タイマーを待つ必要もありません。</p> <p>SIP IP Phone にダイアル規則を適用しない場合は、[SIP ダイアルルール (SIP Dial Rules)] フィールドの設定を [<なし>] のままにします。この設定は、コール処理の前にユーザが [ダイアル] ソフトキーを使用するか、タイマーが期限切れになるまで待つ必要があることを意味します。</p>
[MTP 優先発信コーデック (MTP Preferred Originating Codec)]	ドロップダウンリストボックスから、SIP コールにメディアターミネーションポイントが必要となる場合に使用するコーデックを選択します。
[コーリングサーチスペースの再ルーティング (Rerouting Calling Search Space)]	<p>ドロップダウンリストボックスから、再ルーティングに使用するコーリングサーチスペースを選択します。</p> <p>参照先へのルートを検索するときは、Referrer の再ルーティングコーリングサーチスペースが使用されます。再ルーティングコーリングサーチスペースが原因で Refer が失敗した場合、Refer Primitive は「405 Method Not Allowed」メッセージを使用して要求を拒否します。</p> <p>リダイレクション (3xx) プリミティブおよび転送機能でも、リダイレクト先または転送先を検索するときに、再ルーティングコーリングサーチスペースが使用されます。</p>
[アウトオブダイアログ REFER コーリングサーチスペース (Out-Of-Dialog Refer Calling Search Space)]	<p>ドロップダウンリストボックスから、out-of-dialog Refer コーリングサーチスペースを選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、out-of-dialog (OOD) Refer Authorization コーリングサーチスペース (CSS) を使用して、SIP out-of-dialog Refer を許可します。管理者は、Referrer の OOD CSS を設定することで、out-of-dialog Refer の使用を制限できます。Refer Primitive は、「403 Forbidden」メッセージを使用して OOD Refer 要求を拒否します。</p>

表 82-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[SUBSCRIBE コーリング サーチスペース (SUBSCRIBE Calling Search Space)]	<p>プレゼンス機能でサポートされている SUBSCRIBE コーリング サーチ スペースは、電話機からのプレゼンス要求を Cisco Unified Communications Manager がルーティングする方法を決定します。こ の設定を使用すると、電話機のプレゼンス (SUBSCRIBE) 要求に、 コール処理サーチ スペースとは別のコーリング サーチ スペースを 適用できます。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから、電話機のプレゼンス要求に 使用する SUBSCRIBE コーリング サーチ スペースを選択します。 Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定したすべ てのコーリング サーチ スペースが、[SUBSCRIBE コーリングサー チスペース (SUBSCRIBE Calling Search Space)] ドロップダウン リ スト ボックスに表示されます。</p> <p>ドロップダウン リストからエンドユーザ用の別のコーリング サ ーチ スペースを選択しない場合、SUBSCRIBE コーリング サーチ ス ペースは、デフォルトで [なし] に設定されます。</p> <p>この用途専用の SUBSCRIBE コーリング サーチ スペースを設定す るには、すべてのコーリング サーチ スペースと同じようにコーリ ング サーチ スペースを設定します。コーリング サーチ スペースの 設定方法については、P.46-1 の「コーリング サーチ スペースの設 定」を参照してください。</p>
[アウトバウンドコールロー ルオーバー (Outbound Call Rollover)]	<p>Cisco Unified IP Phone 7931 ではこの設定を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ロールオーバーなし] : このモードでは会議および転送は機能 しません。ユーザがいずれかの機能を使おうとした場合、電話 機のステータスには [エラー: 制限を超えました] と表示され ます。この設定は、CTI アプリケーションをサポートする必要 がある場合にのみ選択してください。 • [同一 DN 内のロールオーバー] : 会議およびコールの転送は、 (異なる回線上で) 同じ電話番号を使用して実行されます。た とえば、回線 6 および 7 に電話番号 1506 が割り当てられた電 話機があるとします。回線 6 にアクティブなコールがあり、 ユーザはそのコールを転送することにしました。ユーザが [転 送] ボタンを押したときに、回線 6 のコールは保留になり、転 送を実行するために回線 7 で新しいコールが開始されます。 • [任意の回線へのロールオーバー] : 会議およびコールの転送 は、元のコールとは異なる電話番号および回線を使用して実行 されます。たとえば、回線 8 および 9 に電話番号 1507 が割り 当てられ、回線 9 に電話番号 1508 が割り当てられた電話機が あるとします。回線 8 にアクティブなコールがあり、ユーザは コールを転送することにしました。ユーザが [転送] ボタンを 押したときに、回線 8 のコールは保留になり、転送を実行す るために回線 9 で新しいコールが開始されます。
[SIP プロファイル (SIP Profile)]	<p>デフォルト SIP プロファイルまたは以前作成された特定のプロ ファイルを選択します。SIP プロファイルには、登録タイマーとキー ブアライブタイマー、メディア ポート、および Do Not Disturb (DND; サイレント) コントロールなど、電話機に関する特定の SIP 情報が 含まれています。</p>

表 82-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[ダイジェストユーザ (Digest User)]	<p>ダイジェスト認証 (SIP セキュリティ) で使用されるため、電話機に関連付けるエンドユーザを選択します。</p> <p>選択したユーザのダイジェスト信用証明書を設定したことを確認します ([エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウを参照)。</p> <p>電話機の設定を保存し、電話機をリセットすると、ユーザのダイジェスト信用証明書が電話機の設定ファイルに追加されます。</p> <p>ダイジェスト認証の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>
[メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required)]	<p>H.323 がサポートしない機能 (たとえば、保留や転送) をインプリメントするために、メディア ターミネーション ポイントを使用するかどうかを指定します。</p> <p>機能をインプリメントするために MTP を使用する場合は、[メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required)] チェックボックスをオンにします。機能をインプリメントするときに MTP を使用しない場合は、[メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required)] チェックボックスをオフにします。</p> <p>このチェックボックスは、H.323 クライアント、および H.245 Empty Capabilities Set をサポートしていない H.323 デバイスにのみ使用してください。または、メディア ストリーミングを 1 つのソースで終了させる場合に使用してください。</p> <p>MTP を使用するためにこのチェックボックスをオンにして、このデバイスがビデオ コールのエンドポイントになっている場合、そのコールは必ずオーディオになります。</p>
[不在ポート (Unattended Port)]	このデバイス上の不在ポートを示すには、このチェックボックスをオンにします。
[DTMF 受信が必要 (Require DTMF Reception)]	SIP および SCCP 電話機の場合、この電話機に DTMF 受信が必要なときは、このチェックボックスをオンにします。
[RFC2833 が無効 (RFC2833 Disabled)]	SCCP 電話機の場合、RFC2833 サポートを使用不可にするときは、このチェックボックスをオンにします。

表 82-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[CAPF 情報 (Certification Authority Proxy Function (CAPF) Information)]	
[証明書の操作 (Certificate Operation)]	<p data-bbox="711 353 1471 421">ド롭ダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul data-bbox="719 443 1471 929" style="list-style-type: none"> <li data-bbox="719 443 1471 510">• [保留中の操作なし]: 認証操作が行われない時間を表示します (デフォルト設定)。 <li data-bbox="719 521 1471 589">• [インストール/アップグレード]: 電話機にローカルで存在している有効な証明書を新規にインストールまたは更新します。 <li data-bbox="719 600 1471 667">• [削除]: 電話機にローカルで存在している有効な証明書を削除します。 <li data-bbox="719 678 1471 929">• [トラブルシューティング]: ローカルで有効な証明書 (LSC) または製造元でインストールされる証明書 (MIC) を元に戻して、CAPF トレース ファイルの認証証明書を表示できるようにします。いずれの証明書タイプも電話機に存在する場合、Cisco Unified Communications Manager は各証明書タイプに 1 つずつ、合計 2 つのトレース ファイルを作成します。 [トラブルシューティング] オプションを選択すると、電話機に存在する LSC または MIC を確認できます。 <p data-bbox="711 952 1471 1014">CAPF 処理の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティガイド』を参照してください。</p>

表 82-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[認証モード (Authentication Mode)]	<p data-bbox="710 315 1474 376">このフィールドでは、CAPF 証明書の処理中に電話機が使用する認証方法を選択できます。</p> <p data-bbox="710 405 1474 465">ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul data-bbox="722 495 1474 689" style="list-style-type: none"> <li data-bbox="722 495 1474 584">• [認証ストリング]: ユーザが電話機で CAPF 認証文字列を入力した場合にのみ、ローカルで有効な証明書をインストール、更新、削除、またはトラブルシューティングします。 <li data-bbox="722 595 1474 689">• [Null ストリング]: ユーザの操作なしで、ローカルで有効な証明書をインストール、更新、削除、またはトラブルシューティングします。 <p data-bbox="759 701 1474 797">このオプションは、セキュリティを提供しません。このオプションは、閉じた安全な環境のみで選択することを強くお勧めします。</p> <ul data-bbox="722 808 1474 1093" style="list-style-type: none"> <li data-bbox="722 808 1474 1093">• [既存の証明書 (LSC の優先)]: 製造元でインストールされる証明書 (MIC) またはローカルで有効な証明書 (LSC) が電話機内に存在する場合、ローカルで有効な証明書をインストール、更新、削除、またはトラブルシューティングします。LSC が電話機内に存在する場合は、MIC が電話機内に存在するかどうかにかかわらず、LSC を通じて認証が実行されます。MIC および LSC が電話機内に存在する場合、認証は LSC を通じて実行されます。LSC が電話機内に存在せず、MIC が存在する場合、認証は MIC を通じて実行されます。 <p data-bbox="759 1104 1474 1200">このオプションを選択する前に、電話機内に証明書が存在することを確認してください。このオプションを選択し、電話機内に証明書が存在しない場合、処理は失敗します。</p> <p data-bbox="759 1211 1474 1368">MIC と LSC が電話機内に同時に存在する場合でも、電話機は常に 1 つの証明書だけを使用して CAPF に対して認証します。何らかの原因により優先されるプライマリ証明書の信頼性が低下した場合、または他の証明書を通じて認証する場合は、認証モードを更新する必要があります。</p> <ul data-bbox="722 1379 1474 1603" style="list-style-type: none"> <li data-bbox="722 1379 1474 1603">• [既存の証明書 (MIC の優先)]: MIC または LSC が電話機内に存在する場合、ローカルで有効な証明書をインストール、更新、削除、またはトラブルシューティングします。MIC が電話機内に存在する場合は、LSC が電話機内に存在するかどうかにかかわらず、LSC を通じて認証が実行されます。LSC が電話機内に存在し、MIC が存在しない場合、認証は LSC を通じて実行されます。 <p data-bbox="759 1615 1474 1711">このオプションを選択する前に、電話機内に証明書が存在することを確認してください。このオプションを選択し、電話機内に証明書が存在しない場合、処理は失敗します。</p> <p data-bbox="710 1727 759 1765"></p> <p data-bbox="710 1771 1474 1890">(注) [電話セキュリティプロファイルの設定 (Phone Security Profile Configuration)] ウィンドウで設定される CAPF 設定値は、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで設定される CAPF パラメータと相互に関係があります。</p>

表 82-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[認証文字列 (Authentication String)]	<p>[認証モード (Authentication Mode)] ドロップダウン リスト ボックスで [認証ストリング] オプションを選択した場合、このフィールドが適用されます。手動で文字列を入力、または [文字列を生成] ボタンをクリックすると文字列が生成されます。文字列が 4 ~ 10 桁であることを確認してください。</p> <p>ローカルで有効な証明書をインストール、更新、削除、またはトラブルシューティングするには、電話機のユーザまたは管理者が電話機に認証文字列を入力する必要があります。</p>
[キーサイズ (Key Size、ビット)]	<p>CAPF で使用されるこの設定では、ドロップダウン リスト ボックスから認証のキー サイズを選択します。デフォルトの設定は 1024 です。その他のオプションには 512 と 2048 があります。</p> <p>デフォルトの設定よりも大きいキー サイズを選択した場合、キーの生成に必要なエントロピーを生成するために長い時間がかかります。キー生成の優先順位を低く設定すると、処理中に電話機を動作させることができます。電話機のモデルによっては、キー生成が完了するまでに 30 分以上かかることがあります。</p> <p> (注) [電話セキュリティプロファイルの設定 (Phone Security Profile Configuration)] ウィンドウで設定される CAPF 設定値は、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで設定される CAPF パラメータと相互に関係があります。</p>
[操作の完了 (Operation Completes By)]	<p>このフィールドは [証明書の操作 (Certificate Operation)] の [インストール/アップグレード]、[削除]、および [トラブルシューティング] オプションをサポートし、操作を完了させる日付および時刻を指定します。</p> <p>表示される値はパブリッシャ データベース サーバ用です。</p>
[証明書の操作ステータス (Certificate Operation Status)]	<p>このフィールドは、認証操作の進行状況を表示します。たとえば、「< 操作タイプ > pending」、「failed」、または「successful」です。ここで、操作タイプは [証明書の操作 (Certificate Operation)] の [インストール/アップグレード]、[削除]、または [トラブルシューティング] オプションを表します。このフィールドに表示される情報は変更できません。</p>
[拡張モジュール情報 (Expansion Module Information)]	
[モジュール 1 (Module 1)]	適切な拡張モジュールを選択するか、または何も選択しません。
[モジュール 1 ロード名 (Module 1 Load Name)]	<p>適切な拡張モジュール用のカスタム ソフトウェアを入力します (該当する場合)。</p> <p>このフィールドに入力される値は、現在のモデルのデフォルト値を上書きします。ファームウェア ロードがモジュール ロードと一致していることを確認してください。</p>
[モジュール 2 (Module 2)]	適切な拡張モジュールを選択するか、または何も選択しません。

表 82-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[モジュール 2 ロード名 (Module 2 Load Name)]	2 番目の拡張モジュール用のカスタム ソフトウェアを入力します (該当する場合)。 このフィールドに入力される値は、現在のモデルのデフォルト値を上書きします。ファームウェア ロードがモジュール ロードと一致していることを確認してください。
[外部データ位置情報 (External Data Locations Information、デフォルトを使用する場合はブランク)]	
[情報 (Information)]	Information (i) ボタンのヘルプ テキストのロケーション (URL) を入力します。デフォルト値を受け入れるには、このフィールドをブランクのままにします。
[ディレクトリ (Directory)]	電話機がディレクトリ情報を取得する際の取得元となるサーバを入力します。デフォルト値を受け入れるには、このフィールドをブランクのままにします。
[メッセージ (Messages)]	このフィールドはブランクのままにします (Cisco Unified Communications Manager では使用されません)。
[サービス (Services)]	IP Phone サービスのロケーション (URL) を入力します。
[認証サーバ (Authentication Server)]	電話機の Web サーバに対する要求を検証するために、この電話機が使用する URL を入力します。認証 URL を指定しない場合、認証を必要とする Cisco Unified IP Phone 上の拡張機能は動作しません。 デフォルトでは、この URL は、インストール時に設定された [Cisco Unified IP Phone ユーザ オプション] ウィンドウにアクセスします。 デフォルト値を受け入れるには、このフィールドをブランクのままにします。
[プロキシサーバ (Proxy Server)]	電話機の HTTP クライアントから、ローカル以外のホスト アドレスにアクセスする HTTP 要求を代理処理するのに使用されるホストとポート (たとえば、proxy.cisco.com:80) を入力します。 プロキシ サーバ パラメータを使用する場合を示す規則としては、次の 2 つがあります。 1. ホスト名に「.」が含まれている。 2. ホスト名が何らかの形式の IP アドレスである。 この URL を設定しない場合、電話機は URL に直接接続を試みません。 デフォルト値を受け入れるには、このフィールドをブランクのままにします。
[アイドル (Idle)]	[アイドルタイマー (Idle Timer、秒)] フィールドで指定された時間の間、Cisco Unified IP Phone が使用されなかった場合に、その電話機のディスプレイに表示される URL を入力します。たとえば、電話機が 5 分間使用されなかったときに、LCD 上にロゴを表示できます。 デフォルト値を受け入れるには、このフィールドをブランクのままにします。

表 82-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[アイドルタイマー (Idle Timer、秒)]	<p>アイドル状態を許容する時間 (秒数) を入力します。この時間が経過すると、[アイドル (Idle)] フィールドで指定された URL が表示されます。</p> <p>Idle URL Timer エンタープライズ パラメータの値を受け入れるには、このフィールドをブランクのままにします。</p>
[内線情報 (Extension Information)]	
[エクステンションモビリティの有効化 (Enable Extension Mobility)]	この電話機でエクステンションモビリティをサポートする場合は、このチェックボックスをオンにします。
[ログアウトプロファイル (Log Out Profile)]	<p>このドロップダウンリストボックスは、Cisco Extension Mobility を使用してデバイスにログインしているユーザがない場合に、デバイスが使用するデバイスプロファイルを指定します。[現在のデバイス設定を使用] またはリストされる特定の設定プロファイルのいずれかを選択できます。</p> <p>特定の設定プロファイルを選択した場合、デバイスとログインプロファイルとの間のマッピングは、ユーザのログアウト後も保持されます。[現在のデバイス設定を使用] を選択した場合、マッピングは保持されません。</p>
[ログイン時刻 (Log in Time)]	このフィールドは、ユーザがログインするまでブランクのままです。ユーザが Cisco Extension Mobility を使用してデバイスにログインすると、ユーザのログイン時刻がこのフィールドに表示されます。
[ログアウト時刻 (Log out Time)]	このフィールドは、ユーザがログインするまでブランクのままです。ユーザが Cisco Extension Mobility を使用してデバイスにログインすると、システムがユーザをログアウトする予定時刻がこのフィールドに表示されます。
[設定ファイル暗号化対称キー情報 (Configuration File Encryption Symmetric Key Information)]	
[対称キー (Symmetric Key)]	<p>対称キーに使用する 16 進文字の文字列を入力します。有効な文字には、数字の 0 ~ 9、および大文字 / 小文字の A ~ F (または a ~ f) があります。</p> <p>鍵サイズに適したビットを入力したことを確認します。ビットが不適切な場合、Cisco Unified Communications Manager は値を拒否します。Cisco Unified Communications Manager は、次の鍵サイズをサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unified IP Phone 7905 および 7912 (SIP のみ) : 256 ビット • Cisco Unified IP Phone 7940 および 7960 (SIP のみ) : 128 ビット <p>この文字列が使用されるのは 1 回のみです。設定値を更新するたびに、新しい鍵を生成してから電話機をリセットする必要があります。</p> <p>暗号化された設定ファイルのダウンロードに関する対称キーの操作の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティガイド』を参照してください。</p>
[文字列を生成]	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで 16 進文字を生成させる場合は、[文字列を生成] ボタンをクリックします。

表 82-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[データベース値を復元]	データベースに存在する値を復元する場合は、このボタンをクリックします。このボタンは、[対称キー (Symmetric Key)] フィールドに不適切な値を入力してから設定を保存した場合に役立ちます。
[H.323 情報 (H.323 Information)]	
[発信者 ID パターン (Outgoing Caller ID Pattern)]	H.323 クライアントへの発信コールの発信者 ID に使用するパターンを 0 ~ 24 桁で入力します。
[発呼側の選択 (Calling Party Selection)]	H.323 クライアントへの発信コールで送信される電話番号を選択します。 次のオプションは、どの電話番号が送信されるかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> [発信元]: 発信側デバイスの電話番号を送信します。 [最初のリダイレクト番号]: 転送デバイスの電話番号を送信します。 [最後のリダイレクト番号]: 最後にコールを転送するデバイスの電話番号を送信します。 [最初のリダイレクト番号 (外部)]: リダイレクト元のデバイスの外部電話番号を送信します。 [最後のリダイレクト番号 (外部)]: コールをリダイレクトする最後のデバイスの外部電話番号を送信します。
[発呼側のプレゼンテーション (Calling Party Presentation)]	Cisco Unified Communications Manager が発信者 ID を送信するか、またはブロックするかを選択します。 Cisco Unified Communications Manager が発信者 ID を送信するようにする場合は、[許可] を選択します。 Cisco Unified Communications Manager が発信者 ID を送信しないようにする場合は、[非許可] を選択します。 [デフォルト] では、発信者 ID を送信しないことが指定されます。
[IE 配信を表示 (Display IE Delivery)]	発信側と着信側のネーム デリバリティ サービスに対する SETUP および CONNECT メッセージ内で、表示 Information Element (IE; 情報要素) のデリバリティを可能にするには、このチェックボックスをオンにします。 デフォルト設定では、このチェックボックスはオンです。
[番号 IE 配信アウトバウンドのリダイレクト (Redirecting Number IE Delivery Outbound)]	コールが転送された場合にコールの最初のリダイレクト番号と転送理由を示すには、このチェックボックスをオンにします (Redirecting Number IE は、Cisco Unified Communications Manager からの発信 SETUP メッセージの UUIE 部分に含まれます)。 送信 SETUP メッセージから最初のリダイレクト番号と転送理由を除外するには、チェックボックスをオフにします。 ボイスメッセージ統合のみで Redirecting Number IE を使用します。ボイスメッセージ システムが Redirecting Number IE をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。
	 (注) デフォルト設定では、このチェックボックスはオフです。

表 82-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[番号IE配信インバウンドのリダイレクト (Redirecting Number IE Delivery Inbound)]	<p>Cisco Unified Communications Manager に対する受信 SETUP メッセージの Redirecting Number IE を受理するには、このチェックボックスをオンにします (Redirecting Number IE は、SETUP メッセージの UUIE 部分に含まれます)。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager に対する受信 SETUP メッセージの Redirecting Number IE を除外するには、このチェックボックスをオフにします</p> <p>ボイスメッセージ統合のみで Redirecting Number IE を使用します。ボイスメッセージ システムが Redirecting Number IE をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。</p> <p> (注) デフォルトでは、このチェックボックスはオフです。</p>
[ゲートキーパー情報 (Gatekeeper Information)]	
[ゲートキーパー名 (Gatekeeper Name)]	このフィールドには、H.323 クライアントを制御するゲートキーパーの名前を指定します。H.323 クライアントにより設定にゲートキーパーが指定される前に、ゲートキーパーが Cisco Unified Communications Manager で設定されていることを確認してください。デフォルトは空白です。
[E.164]	常に固有の E.164 番号を使用します。ヌル値は使用しないでください。
[テクノロジープレフィックス (Technology Prefix)]	このフィールドには、ゾーンでエンドポイントの機能を表す # 記号で終わる番号を指定します。「ゾーン (Zone)」経由の設定を使用できる場合、このフィールドは影響力を持ちません。デフォルト値は 1#* です。ヌル値は使用しないでください。
[ゾーン (Zone)]	このフィールドには、ゲートキーパーが管理するゾーンのゾーン名を指定します。H.323 クライアントおよびトランクに同じゾーン名を使用しないでください。また、ヌル値は使用しないでください。
[Gatekeeper Controlled H.323 Client]	H.323 クライアントのゲートキーパー制御を可能にするには、このチェックボックスをオンにします。
[MLPP 情報 (MLPP Information)]	
[MLPP ドメイン (MLPP Domain)]	このデバイスに関連付けられた MLPP ドメインのドロップダウンリスト ボックスから MLPP ドメインを選択します。値を [なし] のままにすると、このデバイスの MLPP ドメインは、このデバイスのデバイス プールに設定された値から継承されます。デバイス プールに MLPP ドメインの設定がない場合、このデバイスの MLPP ドメインは、MLPP Domain Identifier エンタープライズ パラメータに設定された値から継承されます。

表 82-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[MLPP 表示 (MLPP Indication)]	<p>使用可能な場合、この設定は、優先トーンを再生できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその再生機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスにある次のオプションの中から、デバイスに割り当てる設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト]: このデバイスは、その [MLPP 表示 (MLPP Indication)] 設定をこのデバイスのデバイス プールから継承します。 • [オフ]: このデバイスは、MLPP 優先コールの表示の制御も処理もしません。 • [オン]: このデバイスは、MLPP 優先コールの表示を制御し処理します。 <p> (注) [MLPP 表示 (MLPP Indication)] を [オフ] または [デフォルト] (デフォルトが [オフ] の場合) に設定し、かつ [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] を [強制] に設定するという組み合わせでデバイスを設定することはできません。</p> <p> (注) エンタープライズパラメータ、デバイス プール、またはデバイス レベルで [MLPP 表示 (MLPP Indication)] をオンにすると、[MLPP 表示 (MLPP Indication)] をデバイスに対してオフ (上書き) にしない限り、デバイスで回線に対する通常の [呼出音設定] が動作しません。</p>
[MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)]	<p>この設定は、一部のデバイスでは使用できません。使用可能な場合、この設定は、進行中のコールを優先できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその優先機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスにある次のオプションの中から、デバイスに割り当てる設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト]: このデバイスは、その [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] 設定をこのデバイスのデバイス プールから継承します。 • [無効]: このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先しないようにします。 • [強制]: このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先するようにします。 <p> (注) [MLPP 表示 (MLPP Indication)] を [オフ] または [デフォルト] (デフォルトが [オフ] の場合) に設定し、かつ [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] を [強制] に設定するという組み合わせでデバイスを設定することはできません。</p>

表 82-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[サイレント (Do Not Disturb)] (DND)	
[サイレント (Do Not Disturb)]	電話機で Do Not Disturb (DND; サイレント) を有効にするには、このチェックボックスをオンにします。
[DND オプション (DND Option)]	[サイレント (Do Not Disturb)] がオンになっている場合に電話機で呼出音を無効にするには、ドロップダウン リストから [呼出音オフ] を選択します。
[DND 着信呼警告 (DND Incoming Call Alert)]	[DND 呼出音オフ] オプションを有効にした場合、このパラメータは電話機でコールを表示する方法を指定します。 ドロップダウン リストから、次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> [無効]: このオプションは、コールを通知するビープ音とフラッシュの両方を無効にしますが、着信コール情報は表示します。 [ビープ音のみ]: このオプションは、着信コールがあると、電話機のビープ音だけを再生します。 [フラッシュのみ]: このオプションは、着信コールがあると、電話機のフラッシュアラートだけを表示します。
[セキュアシェル情報 (Secure Shell Information)]	
[セキュアシェルユーザ (Secure Shell User)]	セキュア シェル ユーザのユーザ ID を入力します。このフィールドは、設定している電話機が SSH アクセスをサポートしている場合に表示されます。 Cisco Technical Assistance Center (TAC) では、トラブルシューティングやデバッグを行うときにセキュア シェルを使用します。詳細については、TAC に問い合わせてください。 Cisco Unified Communications Manager が電話機に SSH クレデンシャルを平文で送信しないようにするために、暗号化電話設定ファイルを設定する方法については、このリリースの『 <i>Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド</i> 』を参照してください。
[セキュアシェルパスワード (Secure Shell Password)]	セキュア シェル ユーザのパスワードを入力します。詳細については、TAC に問い合わせてください。 Cisco Unified Communications Manager が電話機に SSH パスワードを平文で送信しないようにするために、暗号化電話設定ファイルを設定する方法については、このリリースの『 <i>Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド</i> 』を参照してください。

表 82-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[割り当て情報 (Association Information)]	
[ボタン項目を変更]	<p>電話機を追加すると、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの左側に [割り当て情報 (Association Information)] 領域が表示されます。</p> <p>この電話機に対するボタンの関連付けを管理するには、このボタンをクリックします。ダイアログボックスが表示され、電話機に対する未保存の変更はすべて失われる可能性があることが警告されます。電話機に対する変更をすべて保存した場合は、[OK] をクリックして続行します。この電話機用の [電話のボタンの並び替え設定 (Reorder Phone Button Configuration)] ウィンドウが表示されます。</p> <p>詳細な手順については、P.82-38 の「電話ボタン テンプレートのボタン項目の変更」を参照してください。</p>
[回線 [1] - 新規 DN を追加] [回線 [2] - 新規 DN を追加]	<p>電話機を追加すると、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの左側に [割り当て情報 (Association Information)] 領域が表示されます。</p> <p>この電話機に関連付ける電話番号 (複数可) を追加するには、これらのリンクをクリックします。いずれかのリンクをクリックすると、[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウが表示されます。</p> <p>詳細な手順については、P.57-3 の「電話番号の設定」を参照してください。</p>
[新規 SD を追加]	<p>電話機を追加すると、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの左側に [割り当て情報 (Association Information)] 領域が表示されます。</p> <p>この電話機の短縮ダイヤル設定を追加するには、このリンクをクリックします。リンクをクリックすると、この電話機用の [短縮ダイヤルと固定短縮ダイヤルの設定 (Speed Dial and Abbreviated Dial Configuration)] ウィンドウが表示されます。</p> <p>詳細な手順については、P.82-31 の「短縮ダイヤル ボタンの設定」を参照してください。</p>
[新規 SURL を追加]	<p>電話機を追加すると、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの左側に [割り当て情報 (Association Information)] 領域が表示されます。</p> <p>この電話機のサービス URL ボタンを設定するには、このリンクをクリックします。リンクをクリックすると、この電話機用の [サービス URL ボタンの設定 (Configure Service URL Buttons for)] ウィンドウが表示されます。</p> <p>詳細な手順については、P.82-36 の「サービス URL ボタンの設定」を参照してください。</p>

表 82-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[新規 BLF SD を追加]	<p>電話機を追加すると、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの左側に [割り当て情報 (Association Information)] 領域が表示されます。</p> <p>この電話機のビジー ランプ フィールド / 短縮ダイヤル設定を設定するには、このリンクをクリックします。リンクをクリックすると、この電話機用の [ビジーランプフィールド短縮ダイヤルの設定] ウィンドウが表示されます。</p> <p>詳細については、P.82-33 の「BLF/ 短縮ダイヤルの設定値」を参照してください。</p>
[新規 BLF ダイレクトコールパークの追加]	<p>電話機を追加すると、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの左側に [割り当て情報 (Association Information)] 領域が表示されます。</p> <p>この電話機のビジー ランプ フィールド / ダイレクト コール パーク 設定を設定するには、このリンクをクリックします。リンクをクリックすると、この電話機用の [ビジーランプフィールドダイレクトコールパークの設定] ウィンドウが表示されます。</p> <p>BLF/ ダイレクト コール パークの設定については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「コールパークとダイレクトコールパーク」の章を参照してください。</p>
[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)]	
(デバイス メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] 領域にある「？」情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のデバイスの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。</p>

短縮ダイヤル ボタンの設定

ユーザに短縮ダイヤル ボタンを提供する場合、または短縮ダイヤル ボタンが特定のユーザに割り当てられていない電話機を設定する場合は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用して、電話機に短縮ダイヤル ボタンを設定します。ユーザは、[Cisco Unified IP Phone ユーザ オプション] メニューを使用して、電話機の短縮ダイヤル ボタンを変更できます。

手順

- ステップ 1** [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで、ウィンドウの上部にある [関連リンク] ドロップダウンリストボックスから [短縮ダイヤルの追加 / 更新] を選択し、[移動] をクリックします。

この電話機用の [短縮ダイヤルと固定短縮ダイヤルの設定 (Speed Dial and Abbreviated Dial Configuration)] ウィンドウが表示されます。



(注) [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウを表示するには、[デバイス] > [電話] の順に選択してください。検索条件を入力し、[検索] をクリックします。短縮ダイヤル ボタンを設定する電話機を選択します。

- ステップ 2** 適切な設定値を入力します (表 82-2 を参照)。
- ステップ 3** [保存] をクリックして、変更内容を適用します。
- ステップ 4** [閉じる] をクリックして、ウィンドウを閉じます。

追加情報

P.82-43 の「関連項目」を参照してください。

短縮ダイヤルと固定短縮ダイヤルの設定値

表 82-2 では、短縮ダイヤル ボタンの設定値について説明します。[短縮ダイヤルと固定短縮ダイヤルの設定 (Speed Dial and Abbreviated Dial Configuration)] ウィンドウには、2 つのセクションがあります。電話機の短縮ダイヤルの設定、およびボタンに関連付けられていない固定短縮ダイヤルの設定に関するセクションです。表 82-2 の説明は両方のセクションに適用されます。

合計 99 個の短縮ダイヤルおよび固定短縮ダイヤルの設定がシステムにより提供されています。

短縮ダイヤルの設定

電話機の物理的なボタンの設定を行います。

固定短縮ダイヤルの設定

固定短縮ダイヤルでアクセスするための短縮ダイヤル番号の設定を行います。



(注) 一部の Cisco Unified IP Phone は固定短縮ダイヤルをサポートしていません。該当の電話機のユーザガイドを参照してください。

表 82-2 短縮ダイヤルと固定短縮ダイヤルの設定値

フィールド	説明
(左のカラムにある 1 ~ 99 の番号)	このカラムには、電話機または Cisco Unified IP Phone 7914 拡張モジュール上の短縮ダイヤル ボタン (たとえば、1、2、3、4 など) を指定するか、あるいは、固定短縮ダイヤルに使用する固定短縮ダイヤル インデックスを指定します。
[番号 (Number)]	ユーザが短縮ダイヤル ボタンを押したときにシステムによってダイヤルされる番号を入力します。

表 82-2 短縮ダイヤルと固定短縮ダイヤルの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ラベル (Label)]	短縮ダイヤルボタンまたは固定短縮ダイヤル番号に対して表示されるテキストを入力します。 Cisco Unified Communications Manager は、Cisco Unified IP Phone 7910 に対してこのフィールドを使用不可にします。このフィールドの値が表示される電話機の種類にご注意ください。対象に漢字未対応の電話機が含まれる場合は、状況により半角カタカナあるいは ASCII 文字を使用するようにしてください。また、電話機のユーザロケールが複数存在する場合は、共通する文字セットを使用してください。
[ASCII ラベル (ASCII Label)]	このフィールドには、[ラベル (Label)] フィールドと同じ情報を指定します。ただし、入力は ASCII 文字に制限されます。Unicode (国際化) 文字をサポートしないデバイスでは、[ASCII ラベル (ASCII Label)] フィールドの内容が表示されます。

追加情報

[P.82-43 の「関連項目」](#) を参照してください。

BLF/ 短縮ダイヤルの設定値

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでプレゼンスを設定すると、ウォッチャーと呼ばれる関係者が、ウォッチャーのデバイスの BLF/ 短縮ダイヤル ボタンを使用して、電話番号または SIP URI のリアルタイム ステータスを監視できるようになります。

プレゼンス対応の SIP 電話機では、電話番号または SIP URI を BLF/ 短縮ダイヤル ボタンとして設定できます。プレゼンス対応の SCCP 電話機では、電話番号のみを BLF/ 短縮ダイヤル ボタンとして設定できます。

BLF/短縮ダイヤル ボタンの設定については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「プレゼンス」の章を参照してください。

BLF/ ダイレクト コール パークの設定値

ダイレクト コール パークを使用すると、ユーザが選択した利用可能なダイレクト コール パーク番号に、パークされているコールを転送できます。ダイレクト コール パーク番号は、Cisco Unified Communications Manager の [ダイレクトコールパークの設定 (Directed Call Park Configuration)] ウィンドウで設定します。設定したダイレクト コール パーク番号は、クラスタ全体で使用可能です。ダイレクト コール パークのビジー ランプ フィールド (BLF) をサポートする電話機は、指定したダイレクト コール パーク番号が、ビジー ステータスかアイドル ステータスかを監視するように設定できます。また、BLF を使用すると、ダイレクト コール パーク番号を短縮ダイヤルできます。

BLF/ ダイレクト コール パークの設定については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「コールパークとダイレクト コールパーク」の章を参照してください。

IP Phone サービスの設定

ユーザは、Cisco Unified IP Phone 7970、7960、および 7940 などの特定の電話機から情報サービス（たとえば、天気、株価など）、またはその他の利用可能なサービスにアクセスできます。管理者は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用して、電話機で使用可能なサービスをセットアップすることができます。ユーザは、[Cisco Unified IP Phone ユーザ オプション] メニューを使用して、サービスを変更できます。[Cisco Unified IP Phone ユーザ オプション] メニューについては、該当する電話機モデルの『Cisco Unified IP Phone ユーザ ガイド』を参照してください。Cisco Unified Communications Manager の管理ページでサービスを管理する方法の詳細については、P.91-1 の「IP Phone サービスの設定」を参照してください。

電話サービスへの加入、電話サービスの更新、および電話サービスの加入解除の詳細については、次の項を参照してください。

- サービスへの加入 (P.82-34)
- サービスの更新 (P.82-35)
- サービスの加入解除 (P.82-36)

サービスへの加入

電話機用の新規サービスに登録する手順は、次のとおりです。

始める前に

Cisco Unified Communications Manager に電話サービスを追加してください。詳細については、P.91-3 の「IP Phone サービスの設定」を参照してください。

手順

ステップ 1 [デバイス] > [電話] の順に選択します。

[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 特定の電話機を見つけるには、検索条件を入力し、[検索] をクリックします。

検索条件と一致する電話機のリストが表示されます。

ステップ 3 サービスを追加する電話機を選択します。

[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 ウィンドウの右上にある [関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスから [サービスの登録 / 登録解除] を選択し、[移動] をクリックします。

この電話機用の、登録済みの IP Phone サービスのウィンドウが表示されます。

ステップ 5 [サービスの選択 (Select a Service)] ドロップダウン リスト ボックスから、電話機に追加するサービスを選択します。

ステップ 6 [次へ] をクリックします。

選択したサービスが、ウィンドウに表示されます。別のサービスを選択する場合は、[戻る] をクリックし、ステップ 5 を繰り返します。

ステップ 7 必須パラメータを持つサービスの場合は、表示されているフィールドにその情報を入力します。

ステップ 8 [登録] をクリックします。

サービスが [登録済みサービス (Subscribed Services)] リストに表示されます。

ステップ 9 別のサービスに加入する場合は、[登録済みサービス (Subscribed Services)] 領域の [Subscribe a New Service] リンクをクリックします。ステップ 5 ～ステップ 8 を繰り返します。

追加情報

P.82-43 の「関連項目」を参照してください。

サービスの更新

サービスを更新する手順は、次のとおりです。必要に応じて、サービス名とサービスパラメータ値を更新できます。

手順

ステップ 1 [デバイス] > [電話] の順に選択します。

[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 特定の電話機を見つけるには、検索条件を入力し、[検索] をクリックします。

検索条件と一致する電話機のリストが表示されます。

ステップ 3 サービスを更新する電話機を選択します。

[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 ウィンドウの右上にある [関連リンク] ドロップダウンリストボックスから [サービスの登録 / 登録解除] を選択し、[移動] をクリックします。

ステップ 5 [登録済みサービス (Subscribed Services)] リストから、サービスを選択します。

ステップ 6 該当するパラメータを更新し、[保存] をクリックします。

追加情報

P.82-43 の「関連項目」を参照してください。

サービスの加入解除

サービスの登録を解除する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [デバイス] > [電話] の順に選択します。

[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 電話機を特定するための検索条件を入力し、[検索] をクリックします。

検索条件と一致する電話機のリストが表示されます。

ステップ 3 サービスを削除する電話機を選択します。

[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 ウィンドウの右上にある [関連リンク] ドロップダウンリスト ボックスから [サービスの登録/登録解除] を選択し、[移動] をクリックします。

ステップ 5 [登録済みサービス (Subscribed Services)] リストから、サービスを選択します。

ステップ 6 [登録解除] をクリックします。

サービスの加入を解除するかどうかを確認する、警告メッセージが表示されます。

ステップ 7 登録を解除するには、[OK] をクリックします。元の設定値に戻すには、[キャンセル] をクリックします。

追加情報

P.82-43 の「関連項目」を参照してください。

サービス URL ボタンの設定

ユーザは、Cisco Unified IP Phone 7970、7960、および 7940 から情報サービス（たとえば、天気、株価など）、またはその他の利用可能なサービスにアクセスできます。Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用して、電話ボタンで利用できるようにサービスを設定した後に、その電話機の該当のボタンを設定できます。ユーザは、[Cisco Unified IP Phone ユーザ オプション] メニューを使用して、サービスを変更できます。[Cisco Unified IP Phone ユーザ オプション] メニューについては、該当する電話機モデルの『Cisco Unified IP Phone ユーザ ガイド』を参照してください。Cisco Unified Communications Manager の管理ページでサービスを管理する方法の詳細については、P.91-1 の「IP Phone サービスの設定」を参照してください。

サービス URL ボタンの追加

電話機にサービス URL ボタンを設定する手順は、次のとおりです。

始める前に

始める前に、次の設定を行う必要があります。

- Cisco Unified Communications Manager にサービスを追加してください。詳細については、[P.91-3](#) の「[IP Phone サービスの設定](#)」を参照してください。
- 電話ボタン テンプレートにサービス URL ボタンを設定してください。詳細については、[P.89-3](#) の「[電話ボタン テンプレートの設定](#)」を参照してください。
- サービスに加入してください。[P.82-34](#) の「[IP Phone サービスの設定](#)」を参照してください。

手順

ステップ 1 [デバイス] > [電話] の順に選択します。

[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 特定の電話機を見つけるには、検索条件を入力し、[検索] をクリックします。

検索条件と一致する電話機のリストが表示されます。

ステップ 3 サービス URL ボタンを追加する電話機を選択します。

[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの左側の [割り当て情報 (Association Information)] 領域で、[新規 SURL を追加] リンクをクリックします。

この電話機用の [サービス URL ボタンの設定 (Configure Service URL Buttons for) :] ウィンドウが表示されます。

ステップ 5 [ボタンサービス] ドロップダウン リスト ボックスから、電話機に追加するサービスまたは更新するサービスを選択します。

ステップ 6 [ラベル] フィールドと [ASCII ラベル] フィールドの値を変更します。

ステップ 7 サービスを電話ボタンに追加する、またはサービスを更新する場合は、[保存] をクリックします。

ステップ 8 使用可能なボタンとサービスがほかにある場合、別のボタンに追加のサービスを割り当てるときは、[ステップ 5](#) ~ [ステップ 7](#) を繰り返します。

ステップ 9 このウィンドウを閉じて [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウに戻るには、[閉じる] をクリックします。

追加情報

[P.82-43](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

リモート接続先プロファイルへのコピー

モバイル コネクトおよびモバイル ボイス アクセスで使用される新しいリモート接続先プロファイルに、電話レコードからの情報をコピーできます。リモート接続先プロファイルの設定については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「モバイル コネクトとモバイル ボイス アクセス」を参照してください。

手順

ステップ 1 [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで、ウィンドウの上部にある [関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスから [リモート接続先プロファイルにコピー] を選択し、[移動] をクリックします。

この電話機の [リモート接続先プロファイルの設定 (Remote Destination Profile Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 適切な設定値を入力します (『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「モバイル コネクトとモバイル ボイス アクセス」を参照)。

ステップ 3 [保存] をクリックして、変更内容を適用します。

ステップ 4 [閉じる] をクリックして、ウィンドウを閉じます。

追加情報

- P.82-43 の「関連項目」を参照してください。
- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「モバイル コネクトとモバイル ボイス アクセス」

電話ボタン テンプレートのボタン項目の変更

電話機を設定し、電話機にカスタムで非標準の電話ボタン テンプレートに関連付けた場合、関連付けられた電話ボタン テンプレート内の電話ボタン項目を変更できます。変更する場合は、この特定の電話機用にカスタマイズされた新しい電話ボタン テンプレートを作成します。新しい電話ボタン テンプレートは、電話ボタン テンプレートのリストに「SEP9999999999-Individual Template」という形式の名前で表示されます。ここで、9999999999 には、電話機の MAC アドレスが指定されます。



(注)

電話機に標準の電話ボタン テンプレートが関連付けられている場合、この手順は実行できません。最初に、この電話機にカスタムで非標準の電話テンプレートに関連付ける必要があります。

カスタムで非標準の電話ボタン テンプレートのボタン項目を変更するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 [デバイス] > [電話] の順に選択します。

[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 特定の電話機を見つけるには、検索条件を入力し、**[検索]** をクリックします。

検索条件と一致する電話機のリストが表示されます。

ステップ 3 電話ボタン項目を変更する電話機を選択します。

[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 ウィンドウの左側の [割り当て情報 (Association Information)] 領域で、**[ボタン項目を変更]** をクリックします。

ポップアップ ウィンドウが表示され、(電話機に対する) 未保存の変更は失われる可能性があることが警告されます。電話機の設定に変更を加えた場合は、**[キャンセル]** をクリックし、変更を保存してから続行します。

ステップ 5 続行するには、**[OK]** をクリックします。

[電話のボタンの並び替え設定 (Reorder Phone Button Configuration)] ウィンドウが表示されます。このウィンドウは、次のペインから構成されています。

- **[関連項目 (Associated Items)]** : この電話ボタン テンプレート内で電話ボタンに割り当てられている項目のリストが表示されます。システムによって、リスト内の最初の項目がボタン 1 に、2 番目の項目がボタン 2 に、というように順次割り当てられます。
- **[割り当てられていない関連項目 (Unassigned Associated Items)]** : この電話ボタン テンプレート内で電話ボタンに割り当てられていない項目のリストが表示されます。
- **[以下の項目を関連解除 (Dissociate These Items)]** : 電話ボタンに現在割り当てることができない項目のリストが表示されます。

ステップ 6 関連付けられた項目の順序を変更するには、**[関連項目 (Associated Items)]** ペインで項目を選択し、上矢印または下矢印をクリックしてその順序を変更します。

ステップ 7 **[関連項目 (Associated Items)]** ペインから **[割り当てられていない関連項目 (Unassigned Associated Items)]** ペインに、またはその逆に項目を移動するには、一方のペインで項目を選択し、左矢印または右矢印をクリックして他方のペインに項目を移動します。

ステップ 8 **[関連項目 (Associated Items)]** または **[割り当てられていない関連項目 (Unassigned Associated Items)]** ペインから **[以下の項目を関連解除 (Dissociate These Items)]** ペインに、またはその逆に項目を移動するには、いずれかのペインで項目を選択し、対象となる 2 つのペイン間にある上矢印または下矢印をクリックします。

ステップ 9 ペイン間で項目を移動し、すべての項目が目的の順序になったら、**[保存]** をクリックします。

ステップ 10 **[閉じる]** をクリックして、**[電話のボタンの並び替え設定 (Reorder Phone Button Configuration)]** ウィンドウを閉じます。

追加情報

P.82-43 の「[関連項目](#)」を参照してください。

電話機の検索

ネットワーク内には多数の Cisco Unified IP Phone が存在することがあるので、Cisco Unified Communications Manager では、条件を指定して電話機を検索することができます。Cisco Unified Communications Manager データベース内で特定の Cisco Unified IP Phone を検索する手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco VG248 および VG224 Analog Phone Gateway は、電話機の検索時に表示されません。Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウから Cisco VG248 および VG224 Analog Phone ポートを検索できます。Cisco VG248 および VG224 Gateway の設定情報については、P.81-1 の「ゲートウェイの設定」を参照してください。



ヒント

検索の制限方法については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「電話機の検索」を参照してください。ユーザがアクティブにログインしているデバイスを検索する方法については、P.82-42 の「アクティブにログインしているデバイスの検索」を参照してください。



(注)

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、電話機の検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、電話機の検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [デバイス] > [電話] の順に選択します。

[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。アクティブな (前回の) クエリーのレコードも、ウィンドウに表示されることがあります。

ステップ 2 データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、[ステップ 3](#) に進んでください。

レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。

- 最初のドロップダウンリストボックスから、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウンリストボックスから、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注)

検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 3 [検索] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数] ドロップダウンリストボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択] をクリックして [選択項目の削除] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 表示されたレコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。

(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

P.82-43 の「[関連項目](#)」を参照してください。

アクティブにログインしているデバイスの検索

Cisco Extension Mobility 機能は、ユーザがアクティブにログインしているデバイスを追跡します。Cisco Unified Communications Manager には、ユーザがログインしているデバイスを検索するための特別な検索ウィンドウがあります。ユーザがログインしている特定のデバイスを検索し、またはすべてのデバイスを一覧表示する手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、電話機の検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、電話機の検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [デバイス] > [電話] の順に選択します。

[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。アクティブな (前回の) クエリーのレコードも、ウィンドウに表示されることがあります。

ステップ 2 [電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウの右上隅にあるドロップダウン リストボックスから、[アクティブにログインしたデバイスのレポート] を選択し、[移動] をクリックします。[アクティブにログインしたデバイスの検索と一覧表示] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 データベース内のアクティブにログインしているデバイスのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、[ステップ 4](#) に進んでください。

レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。

- 最初のドロップダウン リストボックスから、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リストボックスから、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注)

検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 4 [検索] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数] ドロップダウン リストボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。

ステップ 5 表示されたレコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注)

リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

P.82-43 の「関連項目」を参照してください。

関連項目

- [Cisco Unified IP Phone の設定 \(P.82-1\)](#)
- [Cisco Unified IP Phone の設定 \(P.82-3\)](#)
- [電話機の MAC アドレスの表示 \(P.82-5\)](#)
- [電話機のリセット \(P.82-5\)](#)
- [電話機の削除 \(P.82-6\)](#)
- [電話機の設定値 \(P.82-7\)](#)
- [短縮ダイヤル ボタンの設定 \(P.82-31\)](#)
- [短縮ダイヤルと固定短縮ダイヤルの設定値 \(P.82-32\)](#)
- [BLF/短縮ダイヤルの設定値 \(P.82-33\)](#)
- [IP Phone サービスの設定 \(P.82-34\)](#)
- [サービス URL ボタンの設定 \(P.82-36\)](#)
- [電話ボタン テンプレートのボタン項目の変更 \(P.82-38\)](#)
- [電話機の検索 \(P.82-40\)](#)
- [電話番号の設定 \(P.57-1\)](#)
- [ゲートウェイの設定 \(P.81-1\)](#)
- [電話ボタン テンプレートの設定 \(P.89-1\)](#)
- [IP Phone サービスの設定 \(P.91-1\)](#)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unified IP Phone」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「プログラム可能な回線キー」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「電話機設定チェックリスト」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「電話機能」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「電話番号の概要」
- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「プレゼンス」
- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「モバイル コネクトとモバイル ボイス アクセス」

